

おしやま
します

遺族への配慮 心がけて

遺品整理士 井上 明範さん(56) 中央区

家族や親戚に代わり、故人の遺品を整理する遺品整理士。「高齢少子化を背景に、需要は年々高まっています」と話す井上明範さんは、銀行の元支店長という異色の経歴を持ちます。

不動産会社「ネクステック」では、今年1月から遺品・生前整理事業をスタート。井上さんは昨年12月に遺品整理士の資格を取り、事業に携わっています。

「この仕事にはさまざまなお客さんが関わっていて、廃棄物の処理などに関して不透明な部分が多かった。依



頼者に対して明確な流れを提示し、信頼性の高いサービスを提供し、心にかけているのは、遺族への配慮。例え捨てる

ものであっても、一つ一つ丁寧に取り扱います。通帳、現金のほか、思い出のつまった写真など「遺族にとって大切なもの」を探すこと

も重要な仕事。本も一冊ずつ中を確認しています。

併せて相談されるケースが多いのが不動産の処理。「遺品整理と不動産は切っ

ても切れない関係。この事業を始める以前から、遺品整理に関わる相談がとて多かったです。それが事業参画のきっかけともなりました」と説明。「希望があれば、不動産も併せて最後までサポートします」と話しています。

「安心してまかせてもらえる仕事がいい」と井上さん

気温30度を超えた日の多かった今夏、井上さんらはエアコンをつけることなく汗だくで作業しました。「電気代は依頼者の負担になってしまいますから。最後に、おたくに頼んで良かったと言っていただけのがうれしいですね」と、笑顔を見せます。

銀行員から遺品整理士へ。職種は異なりますが、人の人生にしっかりと関わる姿勢は変わりません。

(石田美穂子)

いとうえ・あきのり
西区在住。遺品整理士。1986年に日本大学を卒業後、拓銀を経て北洋銀行に入行。新発寒支店、西町支店の支店長を務め、ネクステック(中央区大通西1-822-1・1233)取締役に